

情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る

I 主題設定の理由

同じ地域に学ぶ子どもの教育に携わるという立場で、共通課題を確認し、臨地研修・講演会・授業参観を通して系統的によりよい指導が行えるよう本主題を設定した。

II 研究の内容

1 第1回交流研究会（臨地研修）

- (1) 日時 平成28年8月5日（金）13：30～
- (2) 目的 地域の施設を見学して学習したことを、地域教材として授業に生かす。
- (3) 内容 山梨県立ろう学校において、聴覚障がいについてや聴覚に障がいを持つ児童生徒の指導の説明を聞き、施設の見学したことを教育活動に生かす。

2 第2回交流研究会（講演会）

- (1) 日時 平成28年11月16日（水）15：30～（於 日川小学校）
- (2) 目的 不登校や発達障害の児童生徒に対して、学級や学校でどう対応していくとよいか、具体的な事例を参考に参加者全員で話し合い、対応方法などを共有する。
- (3) 内容 演題「学級のできる相談支援について～不登校や思春期に関わる諸問題など～」を、講師に県総合教育センターの主幹・指導主事である佐野和規先生、副主幹・指導主事である三枝寛康先生からお話していただいた。

3 第3回交流研究会（加納岩小学校授業参観）

- (1) 日時 平成29年1月18日（水）14：00～
- (2) 目的 小学校の授業を参観し、小中の連携の視点から研究し、今後の教育活動に生かしていく。

(3) 内容

- ア 授業参観 第2学年算数科（活用学習）
第3学年理科（活用学習）
第6学年学級活動（学級力向上）

イ 交流研究会

- ・授業についての反省・感想
- ・授業についての質疑応答

Ⅱ 成果と課題

1 成果

- ・臨地研修では、県立ろう学校を見学した。ろう学校の小田切教頭先生，土橋先生から，学校概況，きこえとことばの相談支援センター，聴覚障がいについて資料をもとに詳しく説明していただき，学校施設も見学した。学区内にいながら校内を見学することが初めての先生も多く，よい機会となった。早期発見早期対応という視点からも，教師が知っておくことは大事であると再認識した。聴覚障がいの児童生徒にとって文字が大切な情報源で，工夫された掲示物が作られていた。幼・小・中・高と幅広い児童生徒を対象とした，きめ細かな指導は大変参考となった。
- ・講演会では，県総合教育センター主幹・指導主事の佐野和規先生，副主査・指導主事の三枝寛康先生から「学級でできる相談支援について～不登校や思春期に関わる諸問題など～」という演題で指導していただいた。不登校や発達障害の児童生徒に対して，学級や学校でどう対応していくとよいか，具体的な事例を参考に，対応方法などを分かりやすく説明していただいた。資料やワークシートを提供していただき，子どもの気持ちを理解することの大切さを学んだ。
- ・加納岩小学校の授業参観では，活用学習で2年生の算数科の授業1クラス，3年生の理科の授業1クラス，学級力向上で6年生の学級活動の授業1クラスを参観した。授業の進め方や手立て，教室掲示にも工夫が見られた。きめ細かい思考ステップを踏ませ，課題解決に向けて考えさせる授業，また児童の様子から4月からの積み重ねが感じられる授業で，小学校の教職員にとっても，中学校の教職員にとっても大変参考となる授業であった。授業後の交流研究会でも，全体の討議で建設的な意見が出て有意義なものとなった。

2 課題

- ・講演会は，問題を抱える児童生徒の指導で，日常の指導に非常に役立つ内容だった。しかし時間が短く，グループ討議の時間がとれなかったこと，さらに小中で情報交換の時間が確保できなかったことは残念であった。せっかくの機会であるので，もう少し時間を工夫することができるとよかった。
- ・小中の教職員が一堂に会する機会ではあったが，十分な時間がとれず，深まりのある話し合いまでいけなかったのが残念であった。小中で連携して取り組むことが望ましい子どもの育成につながると思う。今後，課題をもとに小・中同士で意見交換する機会が増えるとさらに効果的なものになると感じた。

(ブロック長 松岡 めぐみ)